

天地鎔造化育論下卷

佐藤信淵先生著

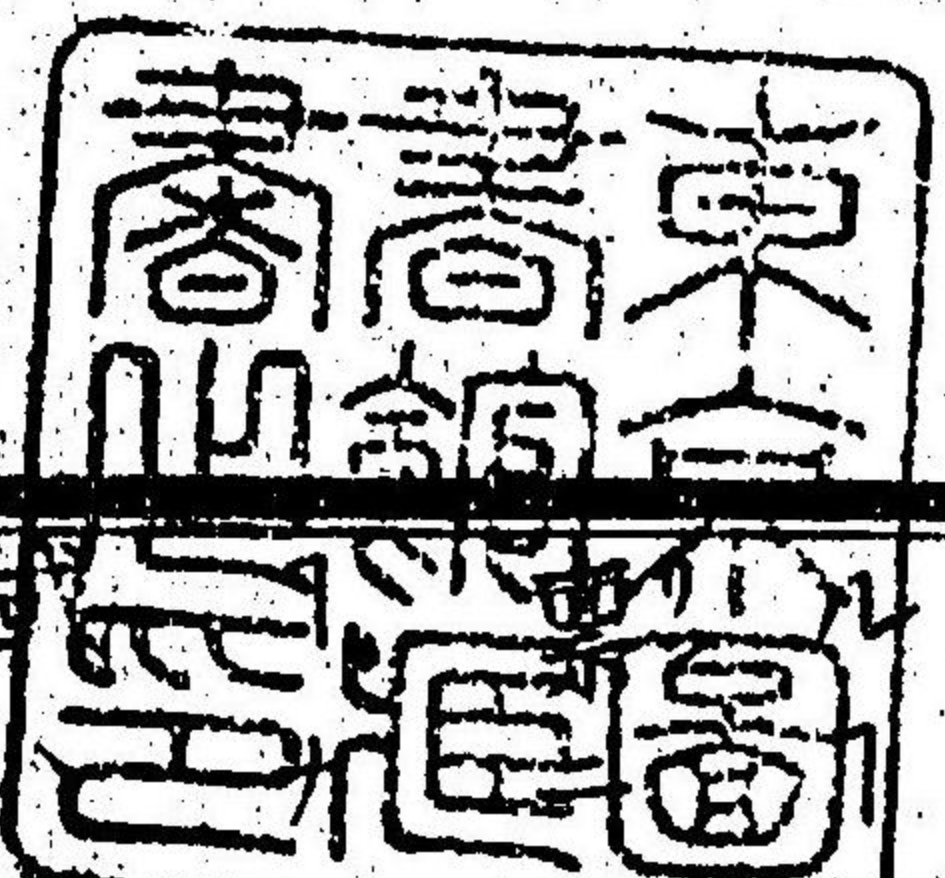
駿河 高田宣和 訓訳

伊豆 萩原正平

校正

相摸 福住正兄

人ハ、皇祖天神ノ愛矜スル所ニシテ、天照大神ノ煦育  
スル所ナリ、故ニ、其性命ヲ賦スルヤ、一善ノ備ハラザ  
無シ、然リ而メ、奈何トモスベカラザルモノハ、氣  
備正ノ殊ナルヲ有テ、而メ、智愚賢不肖ノ異ナル  
キ、一能ハザルナリ、是故ニ、先哲曾テ論アリ曰ク、  
生ナガラニシテ之ヲ知リ、或ハ學テ而メ之ヲ知



天地七育論

リ、或ハ困テ而メ之ヲ知ル、或ハ安シテ而メ之ヲ行ヒ、  
或ハ利シテ而メ之ヲ行ヒ、或ハ勉強シテ而メ之ヲ行  
フ、夫皇祖天神ノ命ヲ賦スルヤ平等不二ニシテ、而メ  
世ニ生ル、ノ人、各箇齊シカラザル、是ノ如クナル  
者ハ、皆是前生脩ムル所ノ自業ニ因レルナリ、夫、天ト  
地トノ間、タニ一界ノ幽冥ナル者アリ、所謂、幽界ニシ  
テ大冥府アリテ、以テ萬魂ノ幽明ヲ黜陟ス、凡、自ラ四  
端ノ發スル者ヲ暴シテ、而メ其性ニ率ハザレバ、其報  
ヤ必ラス愚也、自ラ義理ノ務ムベキヲ棄テ、而メ其事  
ヲ為サレバ、其應ヤ必不肖ナリ、故ニ世ニ生レテ、而

メ愚不肖ナル者ハ、皆是前世自暴自棄ノ冥罰ナリ、然  
レモ其罪惡未ダ甚シカラズシテ、而メ生ラ人類ニ受  
ル、一ヲ得ルニ至テハ、則皇祖天神之ニ與フルニ四性  
ヲ以テセズト云フ、一ナシ、是ヲ以テ、恍惚蠢愚ノ人ト  
雖モ、自ラ反テ諸ヲ心ニ求ムレバ、則善惡是非皆能ク  
之ヲ知ル、是ニ由テ之ヲ觀レバ、教化ノ以テ其心ヲ醒  
覺シ、警戒シテ以テ其行ヲ修整シテ、蒼生ヲシテ自ラ  
己ガ非ヲ知テ、而メ皇天ノ典刑ヲ犯ス、一ナカラシム  
ル者ハ、即君師天ニ代テ、而メ人世ヲ經濟スルノ職ナ  
リ、故ニ國家ヲ有ツ者ハ、政教ヲ勉強セズハ、アル可カ

ラサル所以ナリ、夫教化ノ要タルヤ、鎔造ノ神意ヲ講究シテ、以テ宇内ノ蒼生ヲ戒慎シ、冥律ノ嚴明ヲ演說シテ、以テ在世ノ神魂ヲ恐懼セシメ、而メ邪欲ヲ將ニ萌サムトスルノ初ニ滅シ、心ヲシテ道ヲ離ル、ノ遠キニ至ラザラシメ、罪惡ヲ未ダ犯サハルノ前ニ退身ヲシテ罰ヲ蒙ルノ酷キニ陷ラサラシムル所以ナリ、賛參ノ功德コレヨリ大ナルハ莫シ、是故ニ天下ノ蒼生ヲ濟ハムト欲スル者ハ、當ニ務メテ道學ヲ講明シ、以テ國人ヲ教育スベシ、國人道學ノ講義ヲ聞クハ、則天地ノ神意ヲ知ル、既ニ天地ノ神意ヲ知テ、而メ

之ヲ敬ヒ行フキハ、德業乃チ成ル、若シ夫天地ノ神意ヲ敬奉セザレバ、則其人謹慎檢束シテ過失ナシトイヘド、而モ天ニ事フルノ功業無ケレバ、則現世ニ在ルノ間、徒ニ是糞尿ノ納器タルニ過ギサルノミ、夫人ハ天地ノ英、一徳内ニ備リテ、而メ四端外ニ發ス、若シ能ク上天ニ敬事スレバ、則以テ神聖ト為ル可シ、幸ニ天罷ヲ得テ、而メ萬物ノ靈タリ、然メ生涯糞尿ノ納器トナリテ、而メ死ス、耻ヅベキノ甚シキニアラズヤ、且又没後幽界ニ逝テ、大冥府ノ審事臺下ニ至ラハ、則將ニ何ヲ以テ復命セシ

大冥府ハ、大國主神ノ都スル所ナリ、大國主神一名  
ハ大名持神亦名大國魂神、須佐男神ノ三世ノ孫ニ  
シテ、即此ノ大地ヲ造成スル神ナリ、故ニ大國主神  
及ビ國造大神等ノ諸名アリ、此神ノ幽冥ノ大政ヲ  
統治スル所以ハ、神代紀ヲ按スルニ、天照皇大神皇  
子天忍總耳尊ヲシテ、大地ニ主タラシメムト欲ス  
ルノ意アリ、此モ亦深キ緣由アリテ、而メ然セザル  
可ラザル者ナリ、故ニ皇祖高皇產靈神之カ為ニ勅  
ヲ下シ、先ツ天總日命ヲ遣シテ、大國主神ヲ説カシ  
メ、重テ武雷神及ビ武夷鳥神等ヲ遣シテ、以テ大地

ノ邪神ヲ攘ヒ、且大國主神ヲシテ大地ヲ皇子ニ獻  
ゼシム、經津主神、武夷鳥神等勅ヲ奉シテ、皆大地ニ  
天降レリ、是時大名持神既ニ國土ヲ開拓シ、大地ノ  
群首ヲ臣伏シ、部下八百萬ノ神兵アリ、出雲國伊那  
佐ノ小汀ニ都シ、而メ大國主神ト號ス、天使乃チ出  
雲國ニ到リ、大國主神ヲ見テ諭スニ、皇祖ノ命ヲ以  
シ、且國土ヲ獻シテ、而メ之ヲ避ムトテ請フ、大國主  
神肯ムゼズシテ曰ク、抑モ此ノ大地、最初漂蕩水母  
ノ如ク、妖邪ノ溟ル所、鬼魅ノ群ル所、朕曾テ曾祖月  
夜見大神ノ命ヲ受ケ、兵威ヲ以テ群妖ヲ剷平シ、乃

少彦<sup>スチヒコ</sup>ト親<sup>ミコト</sup>ヲ葦<sup>アシ</sup>ヲ殖<sup>ウヅ</sup>エ、薦<sup>ミ</sup>ヲ生<sup>ナ</sup>シ、以テ之ヲ開拓シ、風  
 ニ梳<sup>シメケル</sup>リ、雨ニ浴<sup>シ</sup>シ、筋<sup>シ</sup>ヲ勞<sup>シ</sup>シ、骨<sup>ヲ</sup>ヲ折<sup>ル</sup>ル幾萬年トイフ  
 一<sup>ツ</sup>ヲ知<sup>ラ</sup>ズ、遂ニ以テ此業ヲ成ス一<sup>ツ</sup>ヲ得<sup>タ</sup>リ、今朕  
 一<sup>ツ</sup>百八十子有<sup>リ</sup>、且部下ニ八百萬神アリ、若夫故ナ  
 クシテ之ヲ避<sup>ケ</sup>バ、則擾乱無キヲ保スル一<sup>ツ</sup>ヲ得<sup>ム</sup>  
 ヤ、假<sup>タトヒ</sup>令朕之ヲ避<sup>ル</sup>モ、且斯ノ大衆ヲ奈何<sup>イハシ</sup>セムヤト、  
 天使以テ對<sup>フ</sup>ル一<sup>ツ</sup>アタハズ、乃チ天ニ昇<sup>リ</sup>テ具ニ  
 其事ヲ奏<sup>ス</sup>、高皇產靈神復武甕神等ヲ遣<sup>シ</sup>テ、大國  
 主神ニ勅<sup>シ</sup>テ曰ク、今汝ガ言フトコロヲ聞クニ、深  
 ク其理アリ、然レ凡<sup>レ</sup>大地ハ元來、人類性ヲ鍛<sup>シ</sup>シ、神ヲ

煉<sup>ル</sup>ノ戒場ニメ、諸神永住スベキ地ニ非ズ、須<sup>ス</sup>カラ  
 ク早ク避<sup>サケ</sup>テ皇子ニ獻<sup>ズ</sup>ベシ、且夫汝群妖ヲ蕩平シ、  
 國土ヲ開拓シ、穀果ヲ播殖シ、蒼生ヲ滋息スルノ功、  
 萬世ニ加ハリ、德無窮ニ垂<sup>ル</sup>ル、朕汝ノ德ヲ懋<sup>ナ</sup>リト  
 シ、汝ノ丕<sup>ヒ</sup>績<sup>セキ</sup>ヲ嘉<sup>ス</sup>、故ニ今汝ヲ封<sup>シ</sup>テ幽界ノ主ト  
 ス、且朕汝ガ宮室ヲ造<sup>リ</sup>、汝ガ器物ヲ製<sup>ス</sup>ルニ其制  
 一ニ皇家ノ如クセム、汝其レ現世ノ政ヲ避<sup>ケ</sup>テ、當  
 ニ幽冥ノ事ヲ治<sup>ム</sup>可シ、欽<sup>ソ</sup>ヤ敬<sup>テ</sup>皇天ノ成命ヲ  
 憲章シ、萬魂ノ幽明ヲ黜陟シ、天泰ク、地平ニ、幽冥ノ  
 政事<sup>ヲ</sup>允<sup>ニ</sup>治<sup>リ</sup>、盤古永ク賴<sup>シ</sup>、惟<sup>レ</sup>汝ガ休ナリ、欽<sup>メ</sup>

ヤ、大國主、神曰、皇祖天神ノ教勅<sup>イキ</sup>慇懃<sup>イキ</sup>是ノ如ク、敢テ命ニ從ハザラムヤ、是ニ於テ現世ヲ避テ而メ皇孫ニ獻リ、終ニ身ヲ隱シテ長ク杵築宮ニ鎮座セリ、其後大國魂神及ヒ其子言代主神<sup>コトシロミ</sup>、八百萬神ヲ、天ノ高市<sup>タカキ</sup>ニ會シ、其諸神ヲ帥<sup>サシ</sup>ヒ、天使ニ從テ、共ニ天ニ昇リテ、而メ其至<sup>シ</sup>歎<sup>カ</sup>ノ誠ヲ陳ズ、時ニ皇祖天神大國魂神ニ詔メ曰ク、汝モシ地神ヲ以テ妻ト為サバ、或ハ朕猶<sup>イ</sup>疏意アリトオモハシ、今朕ガ女三穗津姫ヲ以テ、汝ニ配シテ妻ト為サム、宜ク八百万神ヲ帥<sup>サシ</sup>ヒテ、永ク皇家ヲ守護スベシト、乃チ還降ラシム、是ヨリ

以來此神ヲ稱ヘテ幽冥大神トイフ、凡<sup>レ</sup>靈魂ハ幽冥ヨリ來テ、而メ復幽冥ニ歸ル、故ニ人々斯世ヲ辭スル片ハ、必ス冥府ニ復命スル者ナリ、既ニ上ニ論スルガ如ク、人類ノ世ニ生ル、ヤ、其命平等均一ニシテ全備セザル者アルナシ、而レ凡<sup>レ</sup>其魂ノ由來スル所各前世ノ功罪アリ、而メ善惡自ラ齊<sup>ヒ</sup>カラザルナリ、然リ而メ上帝至仁ニシテ清濁共ニ相混シ、天使ヲ冥府ニ下シテ、以テ其投生ヲ促<sup>セ</sup>ス、幽冥大神天命ヲ敬奉シ、乃チ魂等ヲ屢事ニ召シ、各示スニ皇天ノ憲法ヲ以テシ、申<sup>カ</sup>テ之ニ詔シテ曰ク、今夫汝等、皇天ノ寵

遇ヲ蒙リ、生ヲ人間ニ受ル<sub>カ</sub>ヲ得、實ニ是最上ノ慶ナ  
 リ、且能ク憲法ヲ謹守シテ、而メ上天ノ命ニ循<sub>ル</sub>フ<sub>ル</sub>ハ、  
 則更ニ昇天ノ褒賞アラム者ナリ、欽<sub>ミ</sub>メヤ、往テ現世ニ  
 出ツルニ及ヒテ、敬セザル<sub>ト</sub>アル<sub>ト</sub>ナカレ、道ヲ脩メ、  
 徳ヲ成シ、正命以テ彼世ヲ辭シ、然メ後ニ復命セヨ、居  
 常ニ戒懼謹慎シテ、父母ノ遺體ヲ毀傷スル<sub>ト</sub>ナカレ、  
 若シ夫自愛ノ保護ヲ失ヒテ、其身ヲ傷害スル<sub>ト</sub>アラ  
 ハ、則罪惡ヲ犯ス<sub>ト</sub>無シトイヘ<sub>ル</sub>、而モ必ス不敬ノ罰<sub>バ</sub>  
 アラム、況ヤ天憲ヲ犯ス者ニ於テ<sub>ラ</sub>ヤ、嚴タル典刑ア  
 リ、赦<sub>ス</sub>所アル<sub>ト</sub>ナシ、汝等能ク警戒ノ誠ヲ存シ、朕ガ

命ヲ荒棄スル<sub>ト</sub>ナカレト、其天條ヲ誼スル<sub>ト</sub>叮嚀ヲ  
 究極ス、魂等皆其示戒ヲ諳記シテ、而メ後ニ辭シ去ル  
 ナリ、是ヲ以テ人類ノ世ニ生ル<sub>、</sub>ヤ、知覺ヲ發スレバ、  
 則必ス四性ヲ具ヘ、四端ヲ發スル<sub>ハ、</sub>此示戒ヲ諳記ス  
 ルガ故ナリ、且夫靈魂ノ世ニ出ツル或ハ宿縁アリ、而  
 メ父ノ身ニ依託シ、母ノ腹ニ胚胎スル、必皆冥使之ヲ  
 護送ス、吉凶善惡前世ノ報應悉ク冥律アル者ナリ、夫  
 靈魂ノ物タルヤ、現世ヨリ之ヲ觀レバ、則唯是昭々ノ  
 氣ニシテ、形容聲臭ノ見聞スベキニ非ズ、然レ<sub>モ</sub>其精  
 タルニ及ビテハ、則既ニ生氣ヲ得タルナリ、故ニ人類

ノ胚胎產育スル所以ハ悉ク皆造物ノ妙工ニシテ、而  
メ產靈ノ神機ニ出ツル者ナリ是ヲ以テ其生ヤ必ズ  
四性ヲ具ス、所謂四性ハ即聖ト為リ、神トナルノ資ニ  
シテ、而メ之ナキ者ハ人ニ非ザルナリ、故ニ能ク是性  
ヲ擴充スレバ、則以テ四海ヲ安集スルニ足リ、苟モ之  
ヲ擴充セザレバ、則以テ一身ヲ保有スルニ足ラズ、能  
ク四性ヲ擴充スルハ即天命ニ從フナリ、若夫之ヲ荒  
棄セバ即是天命ニ逆フナリ、天命ニ從フ者ハ必ズ上  
帝ノ褒賞ヲ蒙リ、天命ニ逆フ者ハ必ズ冥府ノ殛罰ヲ  
受ク、是故ニ人々現世ニ在ルノ間、能ク思慮ヲ定テ、而

メ汝後ノ備ヲ為サザルベカラザルナリ、

右第七章

子思曰、天命之、曰性、率性之、曰道、脩道之、曰教、道也者不  
可須臾離也、可離者非道也、是故君子戒慎乎其所不睹、  
恐懼乎其所不聞、莫見乎隱、莫顯乎微、故君子慎其獨也、  
此論ハ漢土古來傳統ノ正教、道學ノ蘊奧也、子思ノ學  
ハ深ク天意ヲ推究ス、故ニ能皇國ノ神理ニ協フ、而メ  
孟子天ニ事フルノ說モ亦即此意ヲ祖述スル者ナリ、  
是ヲ以テ此二子ノ說共ニ鑄造ノ化育ニ補ヒアリ、夫  
日輪熬炙シテ、而メ水土蒸沸シ、四資妙合シテ、而メ



凝結シ、先ツ其最初ニ結定シテ、而ノ質ヲ成セル者  
ハ土石ナリ、土石温ニシテ漸化シ、鬱然トシテ其表ニ叢生  
スル者ハ草木ナリ、草木ニシテ漸化シ、蠢焉トシテ  
其間ニ滋息スル者ハニシテ麋鳥獸諸活物ナリ、活物ニシテ漸化シ  
蕃衍漸化シ、卓爾トシテ其中ニ傑出スル者ハ人類也、  
故ニ天地成物ノ序次ハ、鹹ニシテ凝固ニ凝マリ、漸化シ  
テ人類ノ産育スルニ至テ、而メ極マル、所謂漸化ハ萬  
物皆功用既ニ終ル片ハ漸次化シ去テ、而メ昇進スル  
ノ謂ナリ、萬物ノ昇進ハ鹽泥ノ合和ニ凝マリ、漸化シ  
テ人類ト為ルヲ得ルニ至リテ、而メ極マル、故ニ人

ハ萬物ノ靈ナリトイフ、皇祖天神産靈ノ玄機ヲ橐籥  
シ、造物ノ妙工ヲ揮撥シ、萬物ヲ發育シテ、以テ人類ヲ  
化生スル其劬勞、慈德、懇到斯ノ如クナルハ、尚改メテ  
漸化昇進シ、將ニ以テ神聖ト為サムトスル也、故ニ其  
命ヲ賦スルヤ、必ズ四性ヲ與ク、其レ必ズ四性ヲ與ク  
ル者ハ即是人ヲシテ心ヲ存シ、性ヲ養ヒ、而メ各自ラ  
己ガ神ヲ煉ラシメムト欲スルナリ、子思斯ニ見ル  
アリ、故ニ中庸ヲ作ルニ先ツ開卷第一ニ、道ノ本元天  
ニ出ツルヲ論ズ、所謂天命ハ即人々ノ稟クル所ノ  
四性ナリ、率性ハ即人タルノ常道ナリ、脩道ハ即神聖

タル可キノ法教ナリ、夫道ハ人類ノ規則ニシテ動靜  
 云為之ニ由ラザルベカラサル所ナリ、若夫須臾モ之  
 ヲ離ル、片ハ、則人類ノ規則ヲ闕ク、苟モ人類ノ規則  
 ヲ闕ク片ハ、則上天ノ命ニ逆ヒ、神戒ヲ棄ツルナリ、夫  
 天ニ逆フ者ハ必ス冥府ノ殛罰アリ、既ニ第六章ニ論  
 ズルガ如シ、翅ニ冥獄ノ酷苦ト兔形ノ報復トヲ受ル  
 ノミナラズ、或ハ黜ケラレテ、而メ禽獸トナリ、魚蝦ト  
 為リ、或ハ虺多トナリ、草木トナリ、甚キ者ハ則土石ト  
 ナリテ、而メ終ニ其精魂ヲ失フナリ、畏レザルベケム  
 ヤ、故ニ其人ヲレテ隱微ノ中、獨處ノ時トイヘ、凡、而モ

戒慎恐懼シテ逆天ノ妄想ヲ遏メテ、以テ須臾ノ間モ  
 天理ニ離レザラムコトヲ強メシメバ、現世ノ戒場タル  
 コトヲ知ルベシ、子思ノ説其産靈ノ神理ニ符合スルヤ  
 此ノ如シ、且又人ノ現世ニ在ルヤ、命數各定期アル者  
 ナリ、故ニ其定期ニシテ、而メ死スル者ハ自然ノ正命  
 ナリ、若夫正命ニアラズシテ、而メ死スル者ハ冥府ノ  
 常刑アルナリ、故ニ孟子其義ヲ演テ曰ク、命ヲ知ル者  
 ハ巖墻ノ下ニ立たズ、其道ヲ盡シテ、而メ死スル者ハ  
 正命ナリ、桎梏セラレテ、而メ死スル者ハ正命ニアラ  
 ガルナリ、夭壽貳ガハズ、道ヲ脩メテ以テ之ヲ俟ツハ

命ヲ立ツル所以ナリ、其心ヲ存シ、其性ヲ養フハ天ニ  
 事フル所以ナリ、何ントナレバ罪惡ヲ犯シテ而メ誅  
 戮セララル、者ト、轉覆ニ遇テ而メ壓殺セララル、者ト  
 ハ、皆其人ノ自取ル所ニシテ、而メ天ノ為ス所ニ非ル  
 ナリ、故ニ翹ニ現世ノ禍ノミナラズ冥府更ニ嚴刑ア  
 リ、況ヤ大義ヲ明ラカニセズ、其道ヲ盡サズシテ、而メ  
 踈放ニ自救スル者ニ於テラヤ、夫身軀髮膚之ヲ父母  
 ニ受ク、豈惟ニ父母ニ受クルノミナラムヤ、其父母モ  
 亦之ヲ天ニ受クル者ナリ、保護ヒザルベケムヤ、故ニ  
 天ニ事フル者ハ以テ自愛セズハアルヘカラズ、自愛

セムト思ハ、以テ其心ヲ存養セズハアル可カラズ、  
 心ヲ存養セムト思ハ、以テ其性ヲ擴充セズハアル  
 ベカラザルナリ、故ニ孟子心ヲ存シ性ヲ充スルノ義  
 ヲ論シテ曰ク、人皆人ニ忍ビザルノ心アリ、先王人ニ  
 忍ビザルノ心アレバ斯ニ人ニ忍ビザルノ政アリ、人  
 ニ忍ビザルノ心ヲ以テ人ニ忍ビザルノ政ヲ行ハ、  
 天下ヲ治ムルヲ掌ノ上ニ運ラスベシ、人皆人ニ忍ビ  
 ザルノ心アリト謂フ所以ハ、今人々孺子ノ將ニ井  
 ニ入ラムトスルヲ見レバ、皆怵惕隱ノ心アリ、交ラ  
 孺子ノ父母ニ内ル、所以ニアラズ、譽ヲ郷黨朋友ニ

要ムル所以ニアラズ、其聲ヲ惡ンテ然スルニアラザルナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ、惻隱ノ心ナキハ人ニ非ザルナリ、羞惡ノ心ナキハ人ニアラザルナリ、辭讓ノ心ナキハ人ニアラザルナリ、惻隱ノ心ハ仁ノ端ナリ、羞惡ノ心ハ義ノ端ナリ、辭讓ノ心ハ禮ノ端ナリ、是非ノ心ハ智ノ端ナリ、人ノ是ノ四端アルハ、猶其四體アルガ如シ、是ノ四端アリテ而メ自能ハズトイフ者ハ、自ラ賊スル者ナリ、蓋是ノ四端ハ情ナリ、四性内ニ在リ、故ニ其見聞スル所ニ隨テ、而メ此四情外ニ發ス、即是天ノ明命ニシテ

是江至ナリ

人ノ人為ル所以ナリ、コノ四端ノ發スルニ就テ、即チ之ヲ充スル片ハ、則帝ニ己ガ其道ヲ離レザルノミナラズ、以テ他ノ過ヲ補ヒ、人ノ難ヲ救フニ足ル、事天ノ功業、之ヨリ大ナルハ莫シ、現世ニ在ルノ間ニ、道ヲ脩ムルト此ノ如クナル者ハ、没後、必ズ天ニ昇ルノ人ナリ、孟子曾テ昇天ノ法ヲ説テ曰ク、天爵ナル者アリ、人爵ナル者有リ、仁義忠信善ヲ樂テ倦マズ、此レ天爵ナリ、公卿大夫ハ此レ人爵ナリ、其仁義忠信善ヲ樂デ倦ザルヲ天爵トスル所以ノ者ハ、謂ラク、此道ヲ脩ムル者ハ、現世人ニ知ラレズトイヘ、凡没後ハマサニ天神

ノ爵ヲ受クベキナリ、孟子養性事天ノ説、皆先哲ノ未  
 ダ發セザル所ナリ、且其ノ心ヲ盡シ、性ヲ知リ、天ヲ知  
 ルノ理ヲ講明スルヤ、皆産靈ノ神意ニ恢フ、程伊川曾  
 テ孟子ヲ論シテ曰ク、學ハ己ニ至處ニ到ルト、信ニ知  
 言ナリ、夫人ノ本心ハ即チ天地ノ心ナリ、是ヲ以テ神  
 明朗達届ラサル攸ナシ、故ニ能其全體ヲ盡ス片ハ、則  
 萬物皆我ニ備ハル、是ヲ以テ身ニ反サフシテ、而メ誠  
 アレバ樂焉ヨリ大ナルハ莫シ、強恕シテ、而メ行ハ  
 仁ヲ求ムル是ヨリ近キハナシ、然リ而メ衆人利欲ニ  
 汨レ、其心ヲ陷溺シ、不仁ヲ顧ズ、不義ヲ羞ズ、奸邪潛ニ

長シテ、而メ拵フベカラズ、罪惡暗ニ積テ、而メ釋クベ  
 カラズ、嗚呼日月逝ク、而メ命期我ト延ズ、宛トメ其死  
 セバ冥罰遠ル可ケムヤ、人々須ラク早ク己ガ非ヲ知  
 ルヲ要スベシ、孔子曰ク、朝ニ道ヲ聞テ夕ヘニ死ス  
 凡可ナリト、云心ハ、上帝至仁苟モ前非ヲ悔ヒテ、而メ  
 改勵ノ志ヲ發スレバ、則尚天赦ノ期望スベキ者アレ  
 バナリ、此レ予ガ攷々トシテ教化ニ從事スル所以ナ  
 リ、若夫レ命期ノ既ニ迫ルニ及ヒテハ、則悔トイヘ凡  
 追フベケムヤ、人々命數己ニ竭ルキハ、來迎使忽チ到  
 リ直ニ其魂ヲ攝シテ將テ以テ冥府ニ致ス、是人時ニ

當リテ萬乘ノ君、八軍ノ將、侍臣星ノ如ク、衛士雲ヲ為  
 ストイヘ氏、而氏片時モ其期ヲ延ス、一アタハズ、夫靈  
 魂既ニ脱スレバ、則チ躰魄モ亦腐敗ス留ムベカラザ  
 ルナリ、悲イカナ而メ其孤魂冥使ニ撮捉セラレテ、迺  
 チ冥府ノ審事臺下ニ至ル、時ニ幽界大神高廳ノ上ニ  
 坐シ、糾官、勘吏、羅列林ノ如ク、其訃鞠スル所、我が在世  
 間脩スル所ノ事業、悉ク録シテ冥籍ニ詳ナリ、蔽フベ  
 キ所アルナキ也、訃證踴躍以テ其功罪ヲ審判シ、而  
 メ其仁義忠信善ヲ樂テ倦マズ、或ハ人ノ窘急ヲ賑シ、  
 或ハ人ノ過失ヲ補ヒ、凡事天ノ業ヲ脩メ、而メ功德ヲ

成就スル者ハ、録シテ以テ上天ニ奏聞ス、上帝其成徳  
 ヲ美シ、乃チ褒賞スルニ天爵ヲ以テス、是ニ於テヤ、其  
 靈魂上帝勅許ノ神通ヲ得テ、天ニ上リ、地ニ下ル自在  
 ニシテ、而メ始メテ天神ト為ルヲ得ルナリ、又其兇  
 暴亡賴、羣倫ヲ顔敗シ、或ハ不臣不孝ノ念ヲ懷キ、或ハ  
 不義ノ財ヲ貪リ、或ハ人ヲ惑ハシ、民ヲ誣ヒ、仁義ヲ充  
 塞シ、或ハ富有ニシテ人ノ貧困ヲ救ハズ、或ハ貪穢ニ  
 シテ貨殖ニ竭蹶スル等、凡ソ逆天ノ業ヲ脩メテ、而メ  
 罪惡ヲ増積スル者ハ、乃チ罰スルニ嚴刑ヲ以ス、其天  
 罰ヲ受テ、而メ冥獄ニ陷ルニ至テハ、第六章ニ論スル

如ク痛<sup>ツラ</sup>煉<sup>シ</sup>懊<sup>ホシ</sup>懷<sup>シ</sup>究<sup>ム</sup>極<sup>メ</sup>アルナレ、而メ千歳ヲ經トイヘ  
 凡尚禁固ノ呵嘖ヲ脱セザル者アリ、畏ルベキカナ、  
 或人予ニ問フ者アリテ曰ク、靈魂ハ活物ノ精神ノ  
 ミ、故ニ其物己ニ死スレバ、則チ脱去消滅ス、或ハ其  
 氣消滅セズシテ、而メ冥中ニ在リトイフト雖凡、縲  
 渺乎トシテ形容ナキ片ハ、則之ヲ視レ凡見エズ、之  
 ヲ聴ケ凡聞エズ、假令幽冥ノ大神神通有テ、而メ之  
 ヲ撮取ス凡、既ニ形骸ノ擱<sup>シ</sup>捉<sup>ス</sup>スベキ無シ、又肌膚ノ  
 摸<sup>ガ</sup>索スベキナシ、况ヤ耳目ノ視聽スベキ者アラム  
 ヤ然レバ則其靈魂ナル者ヲ撮シ得テ、或ハ之ヲ鞠

問シ、或ハ之ヲ詰<sup>ツク</sup>嘖<sup>ツク</sup>シ施スニ酷<sup>ク</sup>劇<sup>ク</sup>ノ刑ヲ以スル凡、  
 而モ空<sup>ク</sup>打<sup>ツ</sup>歴<sup>シ</sup>戰<sup>シ</sup>應<sup>シ</sup>承<sup>ス</sup>スベキ者ナケレバ、則彼靈魂惡  
 シ<sup>ク</sup>能<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>苦<sup>シ</sup>痛<sup>ヲ</sup>知<sup>ル</sup>リ、呵嘖ヲ覺テ、而メ其嚴刑ヲ畏  
 ムヤ、是ニ由テ之ヲ觀レバ、所謂大國主ノ冥律モ畢  
 竟、荒唐虚設、唯是愚夫愚婦ヲ虚喝メ、而メ之ヲ嚇懼  
 セシムルノ演劇ニ非ル<sup>ナ</sup>ヲ得ムヤ、浮屠氏ノ徒古  
 來此事ヲ以テ錢穀ヲ會聚スルノ秘策ト為スナリ、  
 僕甚、此説ヲ非トス、而メ先生モ亦以テ實ニ此事アリ  
 リトスルヤト、予之ニ答テ曰ク、靈魂ノ活物精神夕  
 ルハ論ナキナリ、然レ凡其物死スレバ、則皆消滅シ、

且ツ汝後知ル丁無シトイフか如キニ至テハ、則謬  
誤コレヨリ大ナルハ莫シ、吾子ハ未ダ性理ノ學ヲ  
マナバズ、故ニ知覺見聞ヲ以テ、身軀耳目ノ官能ト  
スル者ナリ、此等ノ妄想ヲ發スルモ亦宜ナラズヤ、  
今予當ニ汝ガ為ニ説クベシ、夫血氣アル者ハ必ズ  
本性アリ、所謂本性ハ上天ノ賦スル所ニシテ、即チ  
其物ノ精神ナリ、活物皆性魂アリ、故ニ能ク視聽言  
動ヲ為シ、寒熱痛癢ヲ知ル、所謂性魂ハ以テ天神ト  
為ルベキノ資ナリ、豈消滅スベキ物ナラムヤ、故ニ  
目ノ視ルニ於ケル、耳ノ聞クニ於ケル、身軀手足ノ

運動ニオケル、皆性魂ノ妙用ニシテ、而メ身軀耳目  
ノ自ラ能スル所ニアラザルナリ、是ヲ以テ視聽言  
動皆ヨク禮ニ中ルハ、仁ノ全キ者ニシテ、即神聖タ  
ルノ法ナリ、然リ而メ性理ノ學ヲ知ラザル者ハ、視  
聽言動ヲ以テ身軀耳目ノ為ス所トス、夫夢中ハ身  
軀耳目ノ関カラザル所ナリ、然レモ其喜怒哀樂ノ  
感スル所、美色好音ノ見聞スル所、寒熱痛癢ノ觸ル  
、所醒覺ノ時ニ異ル者アルナシ、是ニ由テ之ヲ  
觀レバ、此ノ身軀耳目ノ外別ニ智覺感觸ヲナス者  
アル丁必セリ、且新ニ死スル人ヲ見ヨ、身軀手足耳



目口鼻尚未ダ太ダ生時ニ異ナラズ、而モ視聽運動ノ機ナク、且之ニ針シ、之ニ灸シ、之ヲ打シ、之ヲ戟ストイヘ氏、而モ知覚アルナシ、此モ亦他ナシ、性魂己ニ脱シ去ルガ故ノミ、之ニ就テ而メ之ヲ熟察スレバ、則チ其刑罰ヲ畏レ刺戟ヲ苦ム者ハ、身軀耳目ニアラズメ、全ク其性魂ニ在ルヲ知ルベキナリ、夫靈魂ハ上天ノ賦スル所、冥府ノ戒ムル所、幽冥ヲ出テ、而メ復幽冥ニ歸ル、彼ノ大國主、神ハ幽冥ノ總主ナリ、部下ニ八百万ノ神卒アリ、而メ萬魂ノ幽明ヲ照陟ス、若シ夫微振スベキ者アレバ、則灸ニ之ヲ

部索メ、緝繋スベカラザルノ靈アラムヤ、飢ニ之ヲ逮捕シテ、而メ性魂ヲ苦惱ムルノ神罰ヲ行ハシ、則痛辣ヲ知ラザルノ魂アラムヤ、是ヲ以テ惡人ノ靈魂嚴刑ヲ蒙ラル者ハ、苦悶煩悩痛哭休マザルナリ、畏レザルベケムヤ、

又天地ノ大義ニ明ラカナラズレテ、而メ怨懟憤懣シテ自救シ、或ハ轉覆漂流等ニテ、凡ソ非命ニ強死スル者ハ、來迎冥使ノ其魂ヲ攝取スルナシ、故ニ其靈死處ニ淹滯シ、或ハ人ニ依リテ人ヲ逞シ、之ヲシテ自救セシム、或ハ人ヲシテ水ニ溺ラシメ、或ハ自到シテ、而

ノ死セシム、之ヲ名ツケテ怨靈トイフ、俗ニ祟物ト呼  
フ者、大抵此類ナリ、又其非命ニ強死ストイヘ、而モ  
其靈死處ニ淹滯セズシテ、而ノ薰園中ニ漂泊シ、或ハ  
流動シテ怪異ヲ作シ、或ハ風ナキニ浪ヲ起シ、或ハ人  
ニ託シテ人ヲ惑シテ以テ爭擾ヲナサシメ、或ハ類聚  
群ヲ為シテ山谷ニ充滿シテ變異百出紀載スベカラ  
ザル、之ヲ名ツケテ遊魂トイフ、俗ニ塚鴟ト呼ビ、或ハ  
天狗ト稱スル者モ大抵此類ナリ、所謂此ノ怨靈及ビ  
遊魂等ノ、冥府ニ復命セズシテ、而ノ薰園中ニ怡凝シ、  
或ハ其死處ニ淹留スル所以ノ者ハ、既ニ來迎攝取ノ

冥使無ク、且天命ニ背テ而ノ非命ニ身ヲ殞シ冥府ノ  
嚴刑アルヲ畏ル、ガ故ナリ、而ノ此怨靈及ヒ遊魂  
等、動モスレバ輒チ人世ノ禍ヲ為ス者アリ、故ニ幽冥  
大神巨帥ヲ處々ニ置テ、以テ之ヲ部御セシメ、且其惡  
厲ナル者ヲ緝捕シテ、之ヲ嚴獄ニ固禁ス、而ノ其惡厲  
ナラザル者モ亦毎日三度ノ熱刑ヲ行フ、即是正命ヲ  
全クセズシテ、而ノ死スル者ノ常刑ナリ、人ノ僻多キ、  
或ハ正命ヲ俟ズシテ、而ノ自ラ入定スル者アリ、此ハ  
來迎使ノ已カ靈魂ヲ冥府ニ誘フヲ畏ル、者ニシテ、  
而ノ是モ亦一種ノ塚鴟ニシテ、大ニ天地ノ正義ニ背

ク者ナリ、夫生ヲ喜ビ死ヲ畏ル、ハ血氣アル者ノ至  
誠ニシテ、而ノ上帝命ヲ賦スルノ神意ナリ、然ルニ冥  
使ノ來迎ヲ俟タズシテ、而ノ自殺スル豈故ナクシテ  
而ノ之ヲ為ス者ナラムヤ、蓋其人必ズ世ヲ惑シ、民ヲ  
誣ヒ、天罰違フベカラザルヲ自ラ知ル者アリ、而ノ  
冥府ノ歸結ヲ受ルニ堪ヘザルナリ、是ヲ以テ自ラ甘  
シノ屎鳩トナルノミ、此類ノ妖魅モ亦古來頗ル多シ  
皆是マサニ三熱ノ苦刑ヲ受ベキ者ナリ、唯其義ニ仗  
リ仁ヲ履テ、而ノ死スル者ハ非命ノ例ニアラザルナ  
リ、是ヲ以テ皇祖天神甚哀憫シ、上下ノ神祇皆愛敬ス

故ニ其褒賞餘罷アリテ、而ノ爵ヲ諸神ノ右ニ序ツル  
者ナリ、夫人ハ活物ノ精英ナリ、若能ク陷溺ノ邪欲ヲ  
去テ、而ノ本然ノ良心ヲ充テバ、則マサニ天神ノ爵ヲ  
受クベシ、現世ハ乃チ戒場ナリ、故ニ皇祖天神上下ノ  
神祇ヲ勉励シ、造化ノ靈機ヲ窮極シテ、以テ必需ノ廢  
物ヲ發育シ、人世ヲシテ性ヲ養ヒ、道ヲ脩ムルノ料恒  
ニ餘アラシム、至慈ノ大徳届ラザル所ナシ、然ルニ性  
ニ率ヒ、道ヲ脩ムルヲ務メズ、而ノ放蕩肆欲以テ天  
爵ハ脩行料ヲ衣食セバ、則其實偷盜ト何ッ撰マン、豈  
上天明威ヲ下ス一魚カルベケムヤ、人々須カテク自

ラ省察スベシ

右第八章

天地ノ道其ノ大外無ク其ノ小内ナシ故ニ夫婦ノ愚  
 モ以テ與リ知ルベキナリ而ノ其命ノ參差タルニ至  
 テハ則チ智者トイヘ凡知ルベカラザル所アリ夫婦  
 ノ不肖ナルモ以テ能ク行フベシ而ノ其身ノ禍福ニ  
 至テハ則賢者トイヘ凡奈シ凡スベカラザル所アリ  
 之ヲ探<sup>サ</sup>レバ彌深ク之ヲ測<sup>カ</sup>レバ彌遠シ天道ノ玄微ナ  
 ル實ニ解スベカラザル所アリ靜ニ言ニ之ヲ觀ルニ  
 或ハ富貴ナル者アリ貧賤ナル者アリ或ハ長壽ナル

者アリ短命ナル者アリ或ハ聰明ナル者アリ愚昧ナ  
 ル者アリ或ハ勇強ナル者アリ怯弱ナル者アリ或ハ  
 美ナル者アリ醜ナル者アリ壯健ナル者アリ病廢ナ  
 ル者アリ或ハ暴虐ニシテ而ノ富盛ナル者アリ善良  
 ニシテ屢空キ者アリ或ハ痴<sup>カ</sup>ニシテ而ノ長生ナル者  
 アリ賢俊ニシテ而ノ短折ナル者アリ或ハ佞<sup>カ</sup>奸ニシ  
 テ而ノ當路ニアル者アリ忠誠ニシテ而ノ不遇ナル  
 者アリ或ハ功アリテ而ノ賞セラレズ勞ナクシテ而  
 ノ褒ヲ受ク或ハ不學無能ニシテ而ノ世ニ用ラレ材  
 德兼備ニシテ而ノ人ニ納ラレザル者モ亦コレアリ

現世ノ事體寔ニ解スベカラズ、夫レ人類ハ同ク是レ  
皇祖天神ノ愛矜スル所ナリ、靈魂モ亦均ク皆天照太  
神ノ賦與スル所ナリ、然リ而ノ其現世ニ出ルニ及テ  
ハ、則彼レハ王侯ノ家ニ生レ、此レハ流丐ノ腹ニ孕マ  
レ、彼レハ<sup>三</sup>淘圃ノ子トナリ、此レハ皇戚ノ兒トナリ、彼  
レハ美艶トナリ、此レハ醜惡ト為リ、彼レハ愚昧ト為  
リ、此レハ聰睿トナリ、彼レハ富豪ノ人トナリ、此レハ  
飢餓ノ夫ト為ル、其吉凶善惡ノ齊シカラザルト胃壤  
懸隔ス、且夫レ善人ニ與シ、有徳ヲ輔ケ、奸人ヲ罰シ、暴  
虐ヲ殛スルハ、皇祖天神ノ天地開基来ノ成憲ナリ、然

ルニ操行不軌專ラ忌諱ヲ犯シ、而メ身ヲ終フルマデ  
逸樂富厚累世絶エズ、或ハ地ヲ擇テ而メ之ヲ踏ミ、時  
アリテ而メ言ヲ出シ、行クニ徑ニ由ラズ、公正ニ非ガ  
レバ則憤ヲ發セズ、而メ禍災ニ罹リ、性命ヲ傷害スル  
者勝テ數フベカラザルナリ、此天地ノ大ナルモ人猶  
憾ムルトコロアル所以ナリ、然レ<sup>ハ</sup>熟之ヲ<sup>ハ</sup>猷按<sup>ハ</sup>フル  
ニ、古來天憲ヲ演ブル者、唯現世ノ行フ所ヲ以テ即現  
世ノ賞罰ヲ判シ、而メ未ダ前世身後ノ冥理ヲ詳ニセ  
ズ、是ヲ以テ世人ヲシテ誤テ憾天ノ幽憤ヲ發セシム  
明辨セズバアルベカラザルナリ、今夫レ銘造ノ神意

ヲ推究シ、勸善懲惡ノ冥律ヲ引合シ、天條ニ照シテ、而  
メ之ヲ審判スレバ、則皆是人々自ラ取ル所ノ吉凶ニ  
シテ、而人然ラザルベカラザルノ理ノミ、明々タル上  
天下土ニ照臨シ、穆々タル冥府幽明ヲ黜陟ス、豈詭隨  
ノ事アラムヤ、天監下ニ在リトハ、冥府ノ窩訪ノ精密  
ナルヲ謂フナリ、況ヤ天照大神ノ至仁、宇内ヲ統御シ、  
神政ヲ總裁ス、惡ンゾ魍魎ノ論ヲ以セムヤ、故ニ其命  
ヲ賦スルヤ、萬魂齊一ニシテ黨無ク偏ナク、天道蕩々  
タリ偏ナク黨無ク、天道平々タリ皇天偏無シ、惟德是  
輔ク、上帝黨ナシ、克ク敬スレバ惟親ム、上天篤ク人ヲ

愛ストイヘテ、不敬徳ヲ敗ル者ハ之ヲ奈何トモスル  
トナシ、故ニ現世ノ齊シカラザルハ、皆是前世ノ報復  
ニシテ、而メ其魂ノ由來スル所ノ宿業ニ係ル者ナリ、  
茲ニ其趣ヲ擬スルニ、凡靈魂現世ニ出テ功業アリト  
イヘテ、而モ未ダ天神ト為スベカラザル者之アリ、或  
ハ頗善行アレテ、而モ傲慢懲スベキ者之アリ、或ハ功  
徳モナク罪惡モナクシテ、而メ復命スル者之アリ、或  
ハ少壯暴ヲ為シテ、而メ晩年善ヲ行フ者之アリ、少壯  
徳ヲ脩メテ、而メ老来奸曲ナル者之有リ、或ハ罪惡多  
シトイヘテ老後ニ人ヲ救ヒテ、而メ天赦ヲ蒙ル者之

アリ、或ハ犬馬活物等ヨリ昇進シタル者モ亦之アリ、  
而メ其純清濁濁ノ次第階級ニ至テハ、則冥府ノ巡按  
ト、現世ノ守護神ト、時々刻々ニ約問考覆シテ、以テ人  
々毎日ノ動靜云為ラ帳目シテ、檢覈スル一極テ嚴密  
ナリ、

熟之ヲ按スルニ、前世ハ現世ノ知ルベカラザル所  
トイヘ氏、而氏我人皆當ニ宿業ノ或ハ善、或ハ惡ナ  
ル者アルベキ一必セリ、然リ而メ現世ノ貴賤、貧富  
大壽、窮達、皆前世脩ムル所ノ宿業ニ因ル者ナレバ、  
則所謂其貴賤、貧富、大壽、窮達ノ現世ニアル、我ニ於

テ何ノ吸戚力之アラム、既ニ以往ノ為ベカラザル  
一ヲ悟テ、而メ來者ノ尚賴アル一ヲ知ル、現世ハ猶  
一長夢ノ如シ、姑ラク貴賤、貧富、大壽、窮達ヲ度外ニ  
置テ、而メ其心ヲ存養シ、其性ヲ擴充シテ、以テ天ニ  
事フルノ本業ヲ勉強セムニハシカザルナリ、

故ニ人主ト為テ、而メ一境ノ國土ニ君臨シ、或ハ貴族  
ト為リ大臣ト為リテ、而メ國家ノ權柄ヲ擁シ、或ハ富  
豪ノ家ニ生レテ、而メ鉅萬ノ貨財ヲ有ナテ一世ニ榮  
耀シテ、而メ萬人ニ尊貴セラル、皆是、前世人ヲ濟ヒ、  
世ヲ救ヒ、道ヲ脩メ、德ヲ積ムノ報復ニシテ、而メ皇祖

天神ノ寵遇スル所、冥府ノ貴重スル所ニシテ、八百萬  
 神モ亦皆愛敬スル所ナリ、現世ノ隆盛ナキヲ得ム  
 ヤ、故ニ天地ト、父母トノ外ニ敬事セザルベカラザル  
 者ハ國君ナリ、夫人主ハ皇祖天神ノ鍾愛スル所ナリ、  
 故ニ一國ニ君師トシテ、而ノ之ヲシテ蒼生ヲ教育セ  
 シメ、即チ天ニ代テ國人ヲ養フ者ナリ、夫生レナガラ  
 ニシテ、而ノ一境ノ主ト為ルハ、其前世ニ積ム所ノ功  
 徳豈容易ノ事ナラムヤ、是故ニ人君ノ近傍ニハ、常ニ  
 鬼神アリテ擁護シテ、以テ不虞ヲ警シム、唯肉眼ニ見  
 エザルノミ、是ヲ以テ苟モ不敬アレバ、則チ暗昧ノ中

トイヘ氏、神罰立トコロニ至ル、敬セザルベケムヤ、

按スルニ、人君ノ外ニ貴ヒ敬フベキ者尚ハツアリ、

一ニ曰ク有道ノ士、二ニ曰ク貴族、三ニ曰ク大臣、四

ニ曰ク權家、五ニ曰ク富豪、六ニ曰ク博學、七ニ曰ク

藝材、八ニ曰ク高年、凡此ノ八貴モ亦皇祖天神ノ寵

スル所ナリ、貴重セザルベカラザル者ナリ、蓋以テ

ルニ、人君及ビ大臣、豪富等、富貴、頭達、皆前世積徳ノ

報應タリトイヘ氏、而レ氏現世ノ其人ニ厚奉スル

所以ノモノハ、之ヲシテ仁ヲ施シ、世ヲ救ヒ、益、天爵

ヲ脩メテ、以テ其徳ヲ全成セシムト欲シテナリ、



故ニ君子ノ天ニ事フルヤ、周公ノ富ヲ以シテ、而ノ  
驕ニ至ラザルナリ、若夫レ天寵ノ隆ナルニ傲テ、而  
ノ人世ヲ經濟シ、天意ヲ奉行スルノ本業ヲ務メズ、  
富盛ノ勢ニ乘ジテ、而ノ驕奢ノ行ヒヲ縱ニセバ、則  
翅ニ前世ノ宿業ヲ失フノミナラズ、更ニ上天ノ明  
威ヲ下スヤ必セリ、即チ夏桀、商辛、隋廣等以テ鑑ム  
ベキ也、

又才智徳操アリトイヘ、或ハ横事ニ罹テ、而ノ身命  
ヲ傷害シ、或ハ流放刑徒トナリ、或ハ窮乏ノ家ニ生レ  
テ、而ノ飢寒ニ困苦スル者、皆是レ前世ニ人ヲ損レ、已

ヲ利シ、道ヲ廢シ、徳ヲ敗ルノ報復ニシテ、而メ皇天ノ  
震怒スル所、冥府ノ詰責スル所、八百萬神モ亦皆嫉ミ  
疎スル所ナリ、現世ノ愁苦無キヲ得ムヤ、

貧賤、憂戚、悉ク前世宿惡ノ報應タリトイヘ、而、  
現世ニテ我カ身ヲ空乏ニシ、我カ肌膚ヲ餓シ、我カ  
筋骨ヲ勞シ、行ヒ我カ為ル所ヲ拂乱シ、我カ心思ヲ  
苦シムル所以ノ者ハ、以テ我カ前世ノ宿罪ヲ贖ハ  
ム、且我ヲシテ心ヲ困メ、性ヲ忍ビ、其能ハザル所ヲ  
増益スルハ、我カ徳ヲ金玉ニセシムルナリ、皇祖天  
神ノ蒼生ヲ愛スルヤ、有罪ノ人トイヘ、其懇到カ

クノゴトシ、故ニ厄窮ニ處マル者苟モ之ヲ免ル、  
 一ヲ徴ムルナカレ、唯安シメ、而メ艱難ヲ守ルベ  
 キナリ、故ニ賢者ノ天ニ事フルヤ、顔子ノ貧ヲ以シ  
 テ、而メ其樂ヲ改メザルナリ、若夫現世ノ不遇ヲ歎  
 ジテ、而メ罪ヲ贖フノ苦行ヲ務メズ、天ヲ怨ミ、人ヲ  
 尤メ、言行謹マザレバ、則チ超ニ現世ノ厄窮ノミナ  
 ラズ、更ニ幽冥ノ罰ヲ累スルヲ必セリ、且夫父母ハ  
 小天地ナリ、天地ハ大父母ナリ、人君ハ大父母ノ宗  
 子ナリ、故ニ父ト君トニ於テハ、則チ東西惟命ニ之  
 従フ、君ノ臣ニ於ケル、父ノ子ニ於ケル、其心ヲ設ル

一豈異ナルヲアラムヤ、況ヤ天ノ我ニ命スル所以  
 ノ者ハ、吉凶、禍福、皆前世ノ報復ニシテ、而メ偏黨ノ  
 私アルニアラズ、故ニ天ニ事フル者ハ、義ニ勇ミ、仁  
 ラ求メテ、而メ身命ヲ顧ザルナリ、比干、伍子胥が諫  
 争シテ、而メ死スルガ如キ、謂ツベシ仁ヲ履メリト  
 申生、岳飛ガ逃レズシテ、而メ烹ラル、ヲ待ツガ如  
 キ、謂ツベシ恭ヲ守レリト、伯勞ガ霜ヲ中野ニ履ミ、  
 子仍カ使ヲ齊國ニ奉ズルガコトキ、謂ツベシ従フ  
 ニ勇メリト、是ヲ以テ上帝哀憫シ、諸神悲歎シ、共ニ  
 皆尊敬セラレテ、而メ天神ノ寵爵ヲ蒙フル者ナリ、

而メ其賞罰ノ報應、現世ニ於テセズシテ、而メ來世ニ於ケル者ハ、既ニ第四章ニ論スル如ク九骸骸アル者ハ、地ヲ離ル、一アタハズ、故ニ哲人アリトイヘ、凡體ヲ脱セザレバ、則チ昇天スルヲ能ハザルナリ、是ヲ以テ、褒貶、黜陟、悉ク身後ニ在ル者ナリ、所謂此ノ三世報應ノ理ハ、從來釋氏ノ講明スル所ナリ、故ニ諸經論ニ引業、愆業、習因、感果ヲ説ク、皆精細ヲ盡セリ、然リ而メ、其大趣意ノ在ル所ヲ精究スルニ至リテハ、則チ大ニ産靈ノ神意ニ異ナリ、何トナレバ諸經論往々説テ曰ク、世尊ノ道德高妙ニシテ、極惡重罪ノ人トイヘ

凡至心佛法ニ帰命シ、而メ諸佛諸僧ヲ供養スレバ、則皆必ス冥罰呵嘖ノ苦ヲ脱シテ、而メ淨土ニ生ル、一ヲ得ルト、然レ凡皇祖銘造ノ真理ヲ推究スルニ、所謂極惡重罪ノ人、諸佛諸僧ヲ供養スルトモ能ク免ルベキ所ニアラザルナリ、孔子ノ曰ク、罪ヲ天ニ獲レバ禱ル所ナシト、若夫其輕諾ニ惑テ、而メ實ニ免ル可シトスル片ハ、則益其罪ヲ累ヌルナリ、畏レザルベケムヤ、且此ノ善ヲ賞シ、惡ヲ罰スルノ天憲ハ、皇祖天神天造草昧ニ建ツル所ニシテ、而メ人世維持ノ真律ナリ、人々此ノ理ヲ熟得スレバ、則事天ノ勉強セザルベカラ

ザルト、宿罪ノ贖セザルベカラザルトヲ知テ、而ノ厄窮ニ素スルトイヘ、罪業庶クハ天ヲ怨ミ、人ヲ尤ムルノ大誤ナカルベシ、若夫己ガ薄祐ヲ憤ラバ、則チ至誠天ニ事ヘテ以テ、其徳ヲ金玉ニスルニシクハナシ、昔レ虞舜ガ潛ニ在ルヤ、父頑ニ、母嚚ニ、象教レリ、三人謀ヲ悞セテ、日ニ舜ヲ殺サムトスルヲ以テ事トス、或ハ舜ヲシテ廩ヲ塗ラシメ、階ヲ捐テ、而ノ下ヨリ火ヲ縱チテ、廩ヲ焚ク、舜乃チ兩笠ヲ以テ自捍シテ、而ノ下リ去テ死ナザルヲ得タリ、後又舜ヲシテ井ヲ穿クシム、舜井ヲ穿チテ、匿室ヲ為リテ、旁

出スベクス、舜既ニ入ルヲ深シ、瞽叟象ト與ニ、土ヲ下シテ井ヲ實ム、舜匿室中ヨリ出去リテ、以テ死ナザルヲ得タリ、夫レ父母ト、家弟ト、日々ニ己ヲ殺スヲ以テ事トス、是レ其ノ前世ニ宿罪アリテ、而ノ上帝ノ怒ル所、冥府ノ罰スル所、諸神ノ疎ニスル所タルヲ、是ヨリ甚シキ者アラムヤ、然レモ舜生死ヲ度外ニ置キテ、至誠天ニ事ヘテ、而ノ父母ヲ敬シ、弟ヲ愛スルノ道ヲ盡シ、載ヲ祇シミテ、瞽叟ニ見ニ、夢々トノ齊粟スレバ、瞽モ亦允トシ、若フ、蒸々トシテ治ノテ、姦ニ格ラズ、是ヲ以テ上下ノ神祇、皆其ノ至

誠息ム一無キ一ヲ感歎シテ、共ニ譏シテ皇帝ニ奏  
請シ、其罪報ヲ赦シテ、而メ倒テ之ヲ冥助シ、漸ク褒  
賞ス、遂ニ漢土總國ノ主ト為ルニ至レルナリ

其徳全成スレバ、則天眷乃チ屬ス、或ハ現世中猶寵靈  
ヲ蒙フル者之アリ、況ヤ肉躰ヲ脱スルノ後ニ於テヲ  
ヤ必ス上帝ノ懋嘉ヲ得テ、而メ天神ノ爵ヲ受ル者ナ  
リ、詩云フ皇タル上帝下ニ臨ムニ赫タル一アリ、四方  
ヲ監觀シテ民ノ莫ヲ求ム、矧ヤ志士仁人窮厄ノ中ニ  
在テ、而メ心ヲ存シ、性ヲ養ヒ、覺タル徳行アル者ヲヤ  
寧之ヲ矜レマ、ザラムヤ、且夫現世ノ禍福悉ク前世脩

ムル所ノ宿業ニ因ルトヤハ、則チ其凶ヲ避ム一ヲ欲  
シテ、而メ追ルベカラザルナリ、其吉ヲ徼ヘム一ヲ欲  
シテ、而メ得ベケムヤ、故ニ患難阨窮ノ人ハ唯眞舜ヲ  
法トスベキアリ、

右第九章

惟皇タル上帝、衆ヲ下民ニ降シテ、若ニ恒ノ性アリ是  
ヲ以テ人皆明命ヲ内ニ具ヘテ、而メ共ニ義ニ仗ルノ  
美タルト、不義ノ醜タルトヲ知ル、然リ而メ徳ヲ脩ム  
ル者ハ常ニ少ク、暴ヲ行フ者ハ常ニ多キハ、何ゾヤ、皆  
是道學ヲ講ゼズ、教化ヲ勤メザルノ致ス所ノミ、既ニ

論ズル如ク、上帝哀ヲ降ストイヘ、而レ氏明哲天ニ  
代テ之ヲ保護セザレバ、則チ過不及ノ偏倚無キ一能  
ハザルナリ、況ヤ氓ノ蚩々タル賞罰以テ之ヲ維持セ  
ザレバ、則チ利欲ニ汨レテ、而メ其心ヲ失フ一ナキ一  
ヲ得ムヤ、必ズ君師ノ政教ヲ待テ、而メ後ニ其性ニ復  
ルヲ得ル者ナリ、教化ノ人世ニ係ルモノ此ノ如ク其  
レ重シ、是故ニ博地衆民アリトイヘ、氏道學講セザレ  
バ、則チ政事立タズ、教化勤メザレバ、則チ彛倫明ラカ  
ナラズ、政事立タザレバ、則チ財用給ラズ、彛倫明ラカ  
ナラザレバ、則チ風俗頹敗ス、夫レ飢寒身ニ迫リ、且彛

倫ノ敗ル、ヲ頹ガレバ、則チ暴ヲ行フノ多カラザル  
ヲ欲ス、氏、而モ得ベケムヤ、人誰カ己ガ子ヲ愛セザラ  
ムヤ、然リ而メ政教勤メザルノ國ハ、或ハ小民衣食給  
ラズレテ、而メ徃々生兒ヲ養ハズ、夫レ人ハ皇天ノ愛  
子ナリ、然ルニ墮胎、賊殺スル皇天ノ神意ヲ奈ンセム、  
然レ氏小民ノ此罪ヲ犯スハ、天罰尚輕シ、此レ其ノ國  
政恩少ク教育ノ化ヲ補助スル一無ク、邦俗鄙吝ニメ  
郷黨相瞻スノ風ナクシテ、而メ貧困窮乏己ム一ヲ得  
ザルノ策ヨリ出ルガ為メナリ、是ヲ以テ上帝ノ震怒  
スル所、諸神ノ照管スル所、其罰必ス國君、及び執政ノ

臣ト、近隣豪富の家トテ、歸來者ナリ、察セザルベク  
 ムヤ、何ントナレバ、人君ハ上帝ノ鍾愛スルトコロナ  
 リ、故ニ數萬ノ蒼生ニ君臨シ、一境ノ國土ヲ富有シ、氣  
 焔<sup>ニ</sup>世ヲ蓋<sup>ホ</sup>ヒ、威力山ヲ倒ス、謂ツベシ寵遇極メテ盛ナ  
 ル者也ト、是故ニ天ニ代リテ當ニ蒼生ヲ救フベキ、固  
 ヨリ其職ナリ惡ンゾ斯ノ民ヲシテ飢寒ニ困メテ、而  
 メ赤子ヲ殘害セシムルノ理アラムヤ、故ニ人君ノ先  
 務ハ法家ヲ敬シ、拂士ヲ親ムヨリ急ナルハ無シ、人君  
 法家ヲ敬シ、拂士ヲ親マザレバ、則チ大道ノ要ヲ開ク  
 一ヲ得ザルナリ、大道講明セザレバ、則チ天命ノ畏ル

ベキヲ知ラザルナリ、天命ノ畏ルベキヲ知ラザレバ、  
 則チ國土ヲ經營スル一アタハザルナリ、國土ヲ經營  
 セザレバ、則チ四資ノ良能ヲ宣達スル一アタハザル  
 ナリ、四資ヲ宣達セザレバ、則チ群神化育ノ天エヲ繼  
 述スル一アタハザルナリ、天工曠廢スルキハ、則チ物  
 産興ラズ、是ヲ以テ國家衰耗シテ、黎民饑<sup>ク</sup>ニ阻ス、赤子  
 ヲ害スル一無ラント欲ストイヘ、得ベカラザルナ  
 リ、是故ニ古ノ明王、飲食ヲ菲<sup>ク</sup>クシテ、而ノ孝ヲ鬼神ニ  
 致シ、衣服ヲ惡クシテ、而ノ美ヲ黻冕ニ致シ、宮室ヲ卑  
 クシテ、而ノ力ヲ溝洫ニ盡ス者ハ、上天ノ明威ヲ畏レ

テ、而ノ國土ヲ經營スル所以ナリ、  
 此六徳ハ、夏ノ禹王ノ脩ムル所ニシテ、皆是人君ノ  
 天ニ事フルノ最モ大ナル者ナリ、故ニ孔子深ク之  
 ヲ美トス、熟、按スルニ、禹天子ノ貴ト四海ノ富トヲ  
 度外ニ置テ、而ノ唯事天ノ本業ノミヲ勉強スルヤ、  
 其ノ天下ヲ有チテ、而ノ與カラズト稱ヘラル、モ  
 亦宜ナラズヤ、書ニ曰ク、天ノ聰明ハ我が民ヨリ聰  
 明ニシテ、天ノ明威ハ我が民ヨリ明威ニシテ上下  
 ニ達ス、故メヤ有土ト、所謂聰明トハ、其言ヲ聽テ其  
 行ヲ視ルナリ、明威トハ、其徳ヲ鑿ニ其罰ヲ降スナ

リ、何ントナレバ、蒼生ハ皇祖天神ノ矜レム所、天照  
 大神ノ育スル所ナリ、故ニ民心必ズ天心ニ感通ス、  
 欺クベカラザルナリ、書ニ曰ク、天ノ視ルヲ我カ民  
 ヨリ視、天ノ聽クヲ我カ民ヨリ聽ク、又曰ク、天ノ民  
 ヲ矜ム、民ノ欲スル所天必ズ之ニ從フト、此レ國家  
 ニ主タル者ハ皇祖天神ノ明威ヲ畏レテ、而ノ下民  
 ヲ濟救セズハアルベカラザル所以ナリ、  
 國土ヲ經シ、度數ヲ審ニシ、氣候ヲ察ラカニシ、地勢ヲ  
 利シ、田畑ヲ畜シ、山澤ヲ拓キ、疆界ヲ正クシ、水陸ヲ理  
 メ、旱潦ニ備フル者ハ、四資ノ良能ヲ宜達シ、群神ノ勲



業ヲ述ツク續サシスル所以ナリ

土水火風ハ、万物ヲ化育スルノ資本ナリ、故ニ之ヲ  
四資ト名ツク、所謂四資或ハ凝合シ、或ハ渙散シ、以  
テ万物ヲ消長ス、即チ是良能ナリ、其大略既ニ第五  
章ニ論スルガ如ク、金石草木活物是ナリ、山澤原野  
アリトイヘ氏、而レ氏鑛造ノ神理ヲ講ゼザレバ、則  
チ四資ノ全能ヲ盡ス、アタハサルナリ、四資ノ全  
能ヲ盡サレバ、則チ諸神ノ劬勞ヲ廢棄スルナリ  
是ヲ以テ上下ノ神祇皆怒リ、必ズ之カ罰ヲ降ス、故  
ニ天工廢棄ノ國ハ、山崩レ、水溢レ、暴風、失火、或ハ疫

癘大ニ行ハレ、或ハ寒暑不順、饑饉屢臻リ、或ハ人氣  
和セズ、爭論荐キリニ興リ、國家衰敗シ、上下共ニ困窮  
スル者ナリ、何ントナレバ、皇祖天神及ヒ天照大神、  
人民ヲシテ蕃息セシムト欲シ、八百万神ヲ勉勵  
シテ、以テ人世必需ノ庶物ヲ發育ス、所謂木神ハ木  
ヲ長ジ、草神ハ草ヲ生ジ、金神ハ金ヲ産シ、玉神ハ玉  
ヲ造リ、魚神ハ魚ヲ育テ、土神ハ土ヲ和シ、諸神職ヲ  
分テ各其事ヲ司リ、日夜片時モ休息ナキモノナリ、  
然ルニ國土ニ主タル者、耽然トシテ國事ヲ經營セ  
ザル時ハ、則チ群神劬勞ノ物産ヲシテ、只徒ニ齎朽

セシムルナリ、是ヲ以テ上帝震怒シテ、必ス其明威  
 ヲ降ス、畏レザルベケムヤ、且又万物ノ成熟ヲ為ス  
 ヤ、各皆氣候寒温ノ定度アリテ、而メ強ユベカラザ  
 ル者ナリ、故ニ先ツ天度南北ノ分數ヲ經緯シ、國土  
 氣候ノ寒温ヲ精審シテ、以テ其物ノ合ト不合ト、土  
 性ノ適ト不適トヲ熟察シ、而メ後ニ水陸ノ物産得  
 テ、而メ興スベキナリ、若夫風ノ自ル<sub>レ</sub>ヲ知ラズ、氣  
 ノ逆スル<sub>レ</sub>ヲ辨ヘズシテ、而メ踈誕ニ事ニ從フキ  
 ハ、則チ翅ニ勞シテ、而メ功ナキノミナラズ、枉費モ  
 亦極テ多シ、凡ソ物産製煉ノ術ハ、第五章及ビ其術

義ニ之ヲ詳ニス、

物産ヲ興シ、製造ヲ精クシ、物貨ヲ饒クシ、運輸ヲ便ニ  
 シ、輕重ヲ校<sub>分</sub>リ、有無ヲ遷シ、互市ヲ通ジ、邦内ヲ富ス者  
 ハ、群神ノ功業ヲ擴充シ、銘造ノ神意ヲ贊極スル所以  
 ナリ、

貨物ノ輕重ヲ校<sub>分</sub>リ、有無遷貿シテ、以テ互市ノ利ヲ  
 收ムルキハ、則帝<sub>タ</sub>ニ自國ノ富實ヲナスノミニアラ  
 ズ、他邦トイヘ<sub>レ</sub>亦其餘賚<sub>ヲ</sub>受ルナリ、所謂家ヲ齊  
 テ以テ國ニ及ボシ、國ヲ治メテ以テ天下ニ及ボシ、  
 民ヲ仁<sub>ニ</sub>シテ、而メ物ヲ愛スル即チ是ナリ、

凡此ノ明威ヲ畏ル、ヤ、四資ヲ達スルヤ、神功ヲ發ス  
ルヤ、經濟ノ基礎ニシテ、治國ノ要樞ナリ、故ニ名ツケ  
テ經國ノ三要トイフ、國家ニ主タル者、誠ニ能ク此三  
ツノ者ヲ行フキハ、則土地拓ケ、貨財聚リ、邦内富饒、耆  
老湛樂、壯者鼓腹ス、飢寒ヲ求メテ、而ノ得ベカラザル  
ナリ、矧ンヤ其子ヲ害スル者アラムヤ、然ノ後、推恩ノ  
教化ヲ奮熙シ、舊染ノ汚俗ヲ惟新シ、人材ヲ教育シ、武  
備ヲ精銳ニシ、法度ヲ嚴肅ニシテ、以テ其國ヲ治メバ、  
則チ人皆本性ノ善良ニ復ル、一ヲ得テ、而ノ暴ヲ行フ  
者漸ク減ジ、徳ヲ脩ムル者漸ク増シテ、國家隆盛、人民

大ニ蕃息セン、人君誠ニ能ク是ノ如クナレバ、則チ實  
ニ天ニ代テ、而メ蒼生ヲ安集スル者ニシテ、上帝ノ盛  
寵ヲ受テ、而メ無疆ノ福祿ヲ饗ルニ耻ナシトイフベ  
シ、豈惟現世ノ富貴ノミナラムヤ、没後モ亦尚美賞ヲ  
蒙リ、爵ヲ天神ノ上首ニ受ケン者ナリ、詩ニ云ク文王  
上ニ在リ、天ニ昭ラカナリ、周ハ舊邦トイヘ、其命惟  
新ナリ、有周顛ハレザラムヤ、帝命時ナラザラムヤ、文  
王涉降シテ、帝ノ左右ニアリト、以テ證スベキナリ、故  
ニ三要ノ人世ニ係ルヤ、極メテ廣大ナリ、若夫レ國家  
ニ主タル者、大道ヲ講ゼザレバ、則チ天命ノ畏ルベキ

一ヲ知ラザルナリ、天命ヲ畏レガレバ、則チ侮慢自ラ  
 賢トシ、而シテ其君タル一ヲ樂ムナリ、侮慢ニソ自ラ賢  
 トスル片ハ、則チ必ズ其言ニ違ヘル者ヲ惡ム、其君タ  
 ル一ヲ樂ム片ハ、則チ必ズ其意ニ從フ者ヲ愛ス、是ノ  
 如クナル片ハ、則チ忠義誠實ノ士ハ日々ニ退キテ、而  
 ヲ諂讒阿諛ノ人日々ニ進ム、是ニ於テヤ、飲食珍ヲ極  
 ヲ、衣服美ヲ極メ、峻宇崇宮酒ヲ甘ンジ、音ヲ嗜ミ、淑女  
 艶姫環繞シテ媚ヲ獻ジ、嬖臣寵堅列座シテ佞ヲ恭シ、  
 内色荒ヲ作シ、外禽荒ヲナシ、上下放蕩、規律ナキ片ハ、  
 則チ賤用屈セザル一ヲ得ザルナリ、賤用足ラガレバ、

則チ下民ヲ傷剝セザル一ヲ得ズ、是ニ於テカ、百姓漁  
 奪ノ苛毒ニ罹リ、産ヲ失ヒ、家ヲ破リ、父子相見ズ、兄弟  
 妻子離散ス、其子ヲ墮胎賊殺スル一無ラムト欲スト  
 イヘ、凡、得ベケムヤ、是ノ如キノ暴君ハ、或ハ現世中天  
 哥ヲ蒙フル者アリ、況ヤ幽冥ニ於テヤヤ、

凡前世徳業アリテ、而メ未ダ天神ト為スベカラガ  
 ル者ハ、現世必ズ人君ノ家ニ生ル、ナリ、其ノ人君  
 ト為ル所以ノ者ハ、尚之ヲシテ天意ヲ奉行シテ、蒼  
 生ヲ濟救シテ、以テ其徳ヲ全成セシメ、然メ後ニ當  
 ニ天神ノ爵ヲ賜ハルベキナリ、何ントナレバ人君

ノ富貴ヲ以テ、而ノ經國ノ三要ニ從事セバ、則チ其  
 下民ヲ濟救スルノ易キナホキヲ反スガ如シ、見  
 ツベシ上帝有徳ヲ親愛スルノ懇到極メテ厚キ  
 ヲ、然レモ大道ノ要ヲ聞ガルトキハ、則チ或ハ現世  
 ノ富盛ニ傲リ、穢徳ノ放佚ヲ縱マ、ニシテ天命ヲ蔑  
 如シ、下民ヲ凋瘵シ、終ニ廣大ノ宿善ヲ敗墮シテ、而  
 メ倒テ無窮ノ冥罰ヲ累積スル者モ亦之アリ、惜  
 哉、

故ニ國家ニ君タル者ハ、以テ經國ノ三要ヲ講明セズ  
 バアルベカラザルナリ、三要ヲ講明セムトヲ思ハ、

以テ法家ヲ敬シ、拂士ヲ親マズバアルベカラザルナ  
 リ、所謂法家ハ法度ノ世臣國家ノ柱石ナリ、拂士ハ輔  
 弼ノ賢士善政ノ淵源ナリ、堯舜ノ政ニシテ、而メ物ニ  
 偏キ<sup>アヤチ</sup>アタハザル者ハ、先務ヲ急ニスレバナリ、夫レ  
 大臣ヲ敬シ、賢能ヲ親シムハ人君ノ先務ナリ、勉メガ  
 ルベケンヤ、

右第十章

天地鎔造化育論下卷終

銘造 仁 三

明治十三年十二月四日出版御届  
同十四年一月十五日出版

定價七十五錢

原著人

故人

佐藤信淵

静岡縣平民

訓譯者

高田宜和

駿河國庵原郡  
柏尾村拾壹番地

校正者

神奈川縣平民

福住正兄

相模國足柄下郡  
湯本村九拾二番地

全

静岡縣平民

萩原正平

伊豆國君澤郡  
小坂村拾三番地

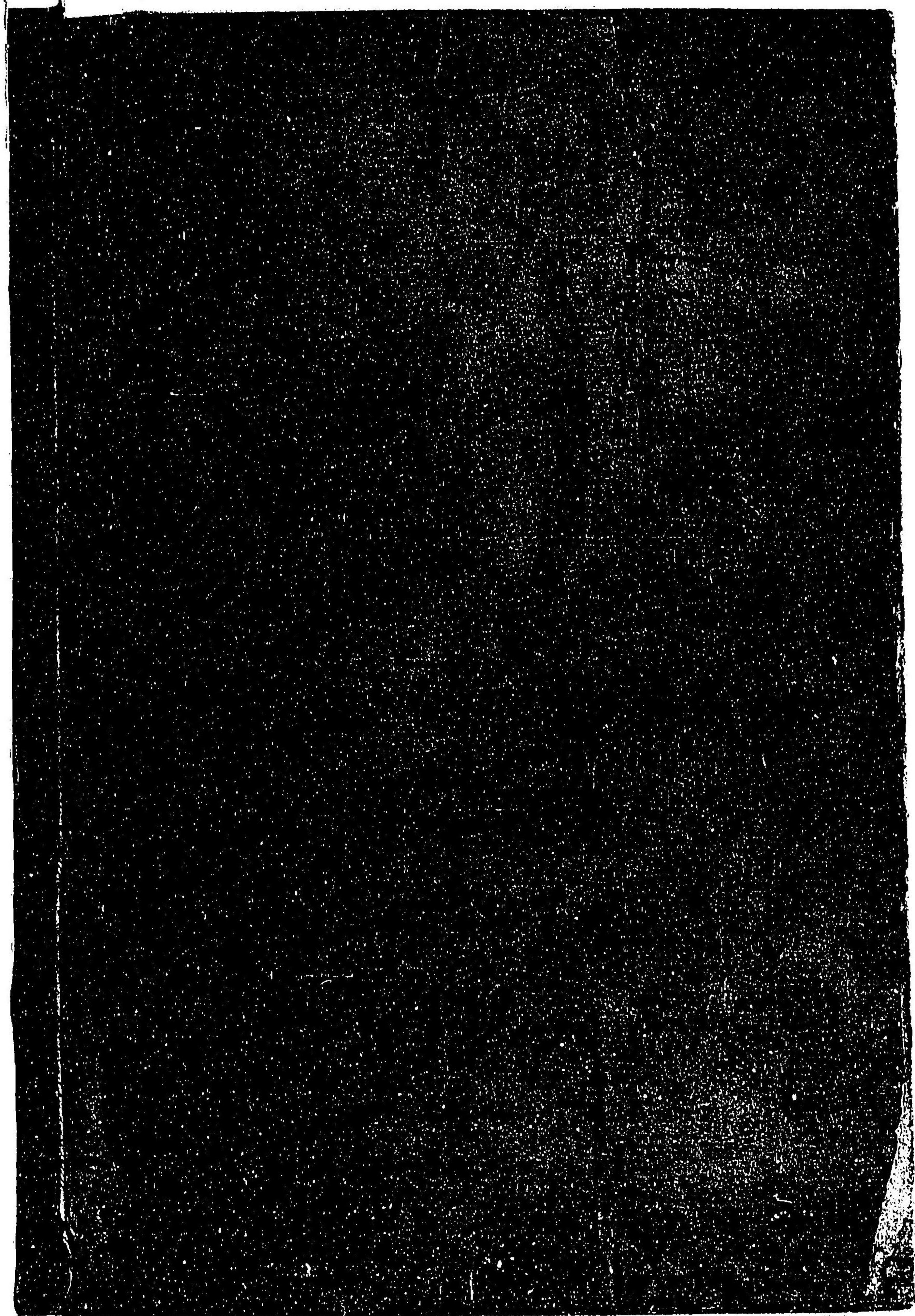
出版人

東京書肆

穴山篤太郎

京橋區南傳馬町  
二丁目拾三番地





東

東				
三	號	架	函	冊
冊				

東